

村山市林業クラブ

山形県村山市

設 立 昭和62年4月

会 員 男43人 女7人 年 齢 47歳～79歳 平均67歳

主なプロジェクト

- ナルコユリの栽培（栽培技術の確立）
- 教育の森事業（協力）
- 会報の発行（情報提供）
- 森林ボランティア（次世代へつながる森林造成）

次世代へつながる林業を目指して

1. 地域の概要

私たちの住む村山市は、山形県のほぼ中央に位置し、山形盆地の北部にあり、市の中央を日本三大急流の一つである最上川が貫流しています。

旬の食材、天然のジュンサイ、日本一おいしいさくらんぼ、手打ちのそばが味わえるそば街道、日本一を誇るバラ公園、夏の暑さを吹き飛ばす徳内まつり等、全国的にも知名度がアップし、近年では多くの観光客が訪れるようになりました。

村山市の森林面積は、総面積の約58%の11,324haで、民有林面積が6,604haあり、その内スギを主体とした人工林面積は2,769haで民有林の人工林率は約42%です。

依然として林業を取り巻く情勢は厳しく、全般的に停滞し、間伐・枝打ち等の保育施業が適正に実施されていないのが現状です。また、農業同様に林業従事者の高齢化が進み、年々従事者が減少しています。

2. グループ結成の動機と概要

昭和62年に厳しい林業情勢を打開すべく、市内の林業士3名が中心となり、36名の賛同者を得て発足しました。今年で20周年の節目を迎え4月の総会は、20周年祝賀会も兼ね盛大なものとなりました。現在では会員数50名となり、市内はもちろん市外の方も加入しています。会員数が増える一方で会員への連絡や、情報提供には苦勞しておりますが、森林組合に事務局を置くことにより、最新の情報が入手し易くクラブ員同士の交流の場ともなっています。また、役員は9名で互いに密な連絡を取り合い、滞ることなく会を運営しています。

クラブの運営資金として、年会費1人2,000円、補助金、謝礼等で年間28万円位で、そのほとんどを事業費と事務費に支出し、残金で研修会出席の旅費にあて、賃金や報償費は基本的にゼロです。すなわちボランティアが中心で、活動も大事業はできませんが、できることからコツコツと実施しています。

3. 活動の状況

発足当時から続いているのは研修旅行です。以後、炭窯の構築、山菜まつりの開催、会報の発行、特用林産物（ナルコユリ栽培技術の確立）生産、森林ボランティア作業等を実施しています。今回はその一部を紹介します。

(1) ナルコユリ栽培

平成10年より3カ年に亘り、県の「林業後継者技術向上実践事業」の協力を得てナルコユリの栽培技術の確立に向け事業を推進してきました。種まきから（100㎡位の畑）始め、7年目の平成17年には少量ですが収穫できるようになりました。また、これを契機にクラブ員も独自に栽培に取り組んでいます。

今年、販路開拓の第一歩となるべく調理方法の研修会に参加協力し、本格的な収穫に向けクラブ員一同頑張っているところです。

(2) 教育の森事業

村山市では昭和57年より市内の全中学生を対象に「ふるさと教育の森」事業を3日間実施しています。子供達を森に親しませ森林の重要性を肌で感じてもらうために、森林教室（7分野）とスギの植林を体験してもらっています。その中で当クラブでは、平成15年から「山野草を探そう」という教室を担当し、生徒に食べられる山野草と、そうではない山野草の見分けかたを教えています。また、同時に行われる植林の指導や植え方が不十分なものについては手直しを行っています。

(3) 会報の発行

平成元年に創刊号を発行して以来7年間の空白がありましたが、平成9年に「倶楽部通信」と名前を付けて再度発行し、以来9号まで年1回のペースで発行しています。クラブ員全員と関係機関に配布し、発行の時期は山仕事の暇な冬場で、年間の行事を復習する意味もあり、その年の主要な行事について掲載しています。倶楽部通信は会員からの評判も良く今後とも継続していきたいと思っています。

(4) 森林ボランティア

過去に2回程有志で単発的に学校林の間伐を実施したことがありましたが、平成16年からはクラブ員全員に案内し、また、広く市民にも参加を呼び掛けて、中学生が植林した教育の森の枝打ち施業を実施しています。まだ2回目で面積は少ないですが、できる範囲でコツコツと継続的に実施し、次世代の子供達の為にも良質材と環境に配慮した森林（ヤマ）を造って行きたいと思っています。

4. 活動の成果と影響

20年間の活動の中で一貫してきたことは、強制しないで会員の手でできることを少しずつ実行してきたことです。

ナルコユリの栽培も1人から10人に増え、クラブ員以外にも数人が栽培するようになり、収穫量も倍近くまで増えています。食べたい、栽培したいという問い合わせが今年は10件程ありました。毎年少しずつ問い

合わせが増えています。知らず知らず小さい輪が大きな輪になりつつあります。

次世代へ残す森林があるから子供達とも交流を持ち、身を持って体験させ、家庭の中で話題になり、それが地域へと広がりを見せています。森林ボランティアでは、会員以外にも数名参加してくれるようになりました。参加者からは「ええ汗かえだ気持ちええな、まだ来年参加さへでけろ」との声が寄せられ、山も整備され人の心も満足してもらっています。

5. 今後の展望

「森林（ヤマ）にもっと人と金を」当クラブのキャッチフレーズです。山は荒廃しています。自然災害によるもの、保育施業がなされていないもの（資金と人手不足）、ゴミの不法投棄などが主たる原因です。地球規模での温暖化対策や環境問題を大々的に報じていますが、CO₂の排出量を削減することが主たるように伝わってきます。CO₂の削減だけでなく森林を造成し、適正な状態に回復させてこそ目的は達成するのではないのでしょうか。

我々は毎年歳が1つ増え、いずれ山に入れないうちが来ますが、その為にも次世代の人々に引き継がなければならない森林を、出来る範囲でコツコツと守って行きたいと思っています。また、そのことを1人でも多くの人々に理解してもらえよう活動していきたいと思っています。